

市政ニュース

救える命を救うため舞い降りる「ウノトリ」のように

ドクターヘリが運航スタート

4月17日、兵庫、京都、鳥取の3府県が共同で運航するドクターヘリの就航式が、拠点となる公立豊岡病院のヘリポートで開催され、午後1時から運航を開始しました。

ドクターヘリとは、人工呼吸器や除細動器などの救急医療に必要な医療機器を備え、フライトドクター(救急医)とフライトナース(看護師)を乗せ、救急患者のもとへ緊急出動する専用ヘリコプターです。

ドクターヘリの導入は全国で22機目で、日本海側での就航は初めて。さらに、3府県での共同運航も初の試みです。就航式には、井戸敏三兵庫県知事をはじめ京都府知事、鳥取県副知事ら約1000人が出席しました。

また、ドクターヘリに搭乗するフライトドクターやフライトナース、操縦士らの紹介があり、同病院但馬救命救急

センター長の小林誠人さんは「1人でも多くの命を救い、後遺症を軽減させることを肝に銘じ、日本海側の救急医療に貢献したい」と決意を述べました。

運航範囲は、原則、同病院から50キロメートル圏内で、エリア内にある361カ所の「ランデブーポイント(ヘリ臨時発着場)」で救急車と合流し、現場で救命措置を施して病院に搬送します。

高速道路空白地帯での救命率、救急医療体制の飛躍的向上が期待できます。



▲ドクターヘリ就航式でのテーブルカット

豊岡の魅力を感じ、フランスの旅行エージェント来訪!

4月14日・15日の2日間、フランスの旅行会社の企画担当者4社4人が本市に来訪しました。

当日は、出石散策(出石史料館、永楽館、家老屋敷など)、豊岡のかばんや県立コウノトリの郷公園の見学、城崎温泉、山陰海岸ジオパーク紹介などを行い、豊岡の魅力を感じていただきました。

熱心に見学されていた各企画担当者からは「豊岡市や兵庫

庫県に向けた旅行商品の開発を考えたい」と心強い言葉をいただきました。今後、あらゆる機会を通じて、市のPRに努めます。



▲コウノトリの前に熱心に学習

トップページ・観光ページを一新、市ホームページリニューアル

市ホームページは、月平均7万件のアクセスがあります。

この度、市ホームページのデザインを更新し、見やすさ、掲載記事の検索のしやすさなど、利用者の利便性の向上を図りました。

(主な更新内容)

- 全ページ統一デザインとし、目にやさしい淡色で構成
- 日常生活に必要な「市民ガイド」の主要8項目を絵文字で



▲市ホームページのトップページ

表示し、トップ画面に配置。掲載記事検索をしやすくするため、検索条件を完全一致からあいまい検索に変更

主な市政の動き

4月

- 4日 日高消防団消防初出式
- 13日 第4回ユネスコ国際ジオパーク会議で山陰海岸プレゼンテーション(15日、マレーシア)
- 14日 フランスの旅行会社4社来訪(15日)
- 17日 ドクターヘリ就航式
- 19日 たじま消費者ホットライン開所式

- 22日 市政懇談会(出石・竹野地域、20日・城崎・日高地域、23日・豊岡地域、30日・但東地域)
- 22日 豊岡市エコハウス竣工式
- 22日 城崎柳ライトアップ点灯式
- 26日 生きものの多様性の保全と事業活動セミナー(名古屋市)
- 30日 市長出前講座(豊岡総合高校)

5月

- 7日 市長出前講座(田鶴野地区)
- 11日 水道まつり
- チャレンジデーで対戦する奥州市長とのエール交換

「マイナスイースター(産前)からの子育て支援」 「とよおかすくすくメッセージ」あかちゃんといっしょ」の発行

妊娠中からおおむね2〜3カ月の子どもがいる家庭に、役立つ情報や相談窓口の情報提供、関係者からの応援メッセージを盛り込んだ冊子を作成しました。

「もうすぐママ」へのアンケートやママさん座談会で把握したニーズを反映しています。冊子は、卓上カレンダー様式で、下部にインデックス機能があります。

母子健康手帳交付時に配布しますが、希望する方は、健康増進課、各子育てセンター、こども育成課(☎29-0053)へ申し出ください。
(主な内容)

- 妊娠中の食事、貧血
- 腰痛予防
- 妊娠中のリラクセス法
- 赤ちゃんのケア・事故防止
- 仲間づくり
- 運動遊び



▲身近に置けるコンパクトなB6サイズの冊子

○関係機関・緊急連絡先

消費生活相談がパワーアップ

4月19日、「たじま消費者ホットライン」が但馬文教府内に開所しました。

近年、複雑・多様化する消費者被害の相談に対応するため、相談員の実務能力の向上とネットワーク形成を目的として、県と但馬地域内の3市2町が共同して開設しました。このような複数の自治体による消費者相談窓口の開設は、全国初の試みです。

各市町の相談員が、毎日2

たじま消費者ホットライン開所

3人交代で対応し、相談者への適切な助言を行うとともに、但馬地域の消費者トラブルの減少を目指します。

- 月曜日〜金曜日(祝日、年末年始は除く)
- 午前9時〜午後4時30分
- 住所・専用電話
- 妙楽寺41-1 但馬文教府内(但馬生活科学センターと並置) ☎23-1999

○開設期間 4月19日〜平成



▲ホットラインの相談風景

24年3月

中貝市長の徒然日記 ③1

それでも走り続ける

なかつた時代に、空を飛ぶ姿をはっきりと思い浮かべた数少ない一人だった。

扉が開かれ、勢いよく飛び立つコウノトリ。笑みを浮かべて見守る秋篠宮殿下と紀子様が。その真後ろで、池田啓さんは直立不動で立っている。方ヒナたちの待つ巣に帰る場

マレーシアからの帰り道。面が終わる。しかし、絵はも閑空で喪服に着替え、乗り継ぐ。いだ羽田便の中で開いた新聞に、その写真は載っていた。溢れた風景だ。死の一カ月前、池田さんの目がわずかにうるんでいるようにも、唇を結んで喜びをかみしめているようにも見える。しかし、同時に、自分の役割を強く意識し、冷静に放鳥の進行を見つめているようにも見える。

機内で涙が溢れ、止まらなくなった。これこそが池田さんだったのだ、と思う。

文化庁の調査官としてコウノトリの保護にかかわり、コを失った。しかし、それでもウノトリの郷公園ができると、池田さん、ほくたちは、走り研究部長として、家族とともに豊岡に移り住んだ。

豊岡は情熱で野生復帰を進めてきたが、冷静な戦略は池田さんの下で立てられた。野生復帰などほとんど誰も信じ

その命を、重い病が奪った。絵本「みえとコウノトリ」が遺作となった。文章は、女の子を乗せたコウノトリが夕

面が終わる。しかし、絵はも一枚。アザミの花、トンボとカエルと子どもたち。命が溢れた風景だ。死の一カ月前、誕生日の病室に届けられた。「池田さんのことを思うと、夕暮れの風景で終わりたくないので、かっただけです。池田さんが好きな風景を描き加えました」

絵を描いた永田 萌さん

景は、本当はまだ実現していない。豊岡は、野生復帰の最高のプロデューサーと羅針盤を失った。しかし、それでも、池田さん、ほくたちは、走り続けるよ。ほくたちはバトン

を預かっているのだから。

コウノトリの翼にのせた夢を...

